

米国企業分野における 損害保険の基礎知識



Baldwin Risk Partners

鎌野達志

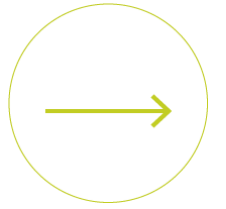
2023年8月24日



本日のアジェンダ

1. 損害保険とは
2. 損害保険マーケットの日米比較
3. 米国企業分野の主な損害保険商品
4. 損害保険料はどうやって計算されているのか？
5. 最近のトピックス
6. 損害保険手配の際に留意すべき事項
7. 保険ブローカーの業務

1. 損害保険とは



1. 損害保険とは

- 保険とはリスクへの対処方法の一つで、第三者(保険会社)にリスクを転嫁・移転させる手法。
- リスクへの対処方法
 - リスクの回避
 - リスクの軽減
 - リスクの転嫁(移転)
 - リスクの保有



保険

契約上の責任移転

1. 損害保険とは

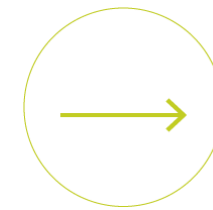


- **損害保険の定義**

- 急激、偶然、外来の事故により被保険者(補償を受ける対象者) が被る経済的な損害を保険会社が補償する保険。
- 被保険者が抱えるリスクを保険料の支払いと引き換えに保険会社に転嫁する。
- 大きく分けると“物”に関する保険と“賠償責任”に関する保険。
- 英語表記として日本ではNon-Life Insuranceという一般的だが、米国では“Property & Casualty Insurance”という表現が使われることが多い。

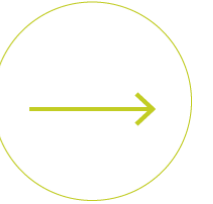
2. 損害保険マーケットの日米比較

2. 損害保険マーケットの日米比較



	米国	日本
規模 (22年度元受正味保険料ベース)	\$715.4Billion (iii社HP) * \$1 = 140円で約100兆円	9兆9千億円 (日本損害保険協会HP)
保険会社数	3,078社 (IBISworld2023)	55社 (金融庁HP)
企業分野の販売チャネル	保険ブローカー (お客様の代理人)	保険代理店 (保険会社の代理人)

2. 損害保険マーケットの日米比較



	米国	日本
保険監督行政	各州による監督	全国ベースでの監督
マーケットサイクル	振れが激しい	安定的（米国との比較で）
賠償責任制度	訴訟社会、巨額の賠償責任	安定的（米国との比較で）

3. 米国企業分野の主な損害保険商品

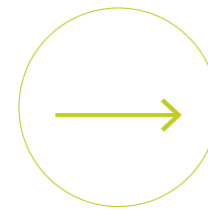
3. 米国企業分野の主な損害保険商品



【一般賠償責任保険 - Commercial General Liability Insurance (CGL/GL)】

- 企業が事業遂行にあたり第三者に対して身体傷害・財物損壊の損害を与えたことにより負った賠償責任損害を補償するもの。
 - <施設管理・事業遂行責任>
企業の施設管理・事業遂行に伴う事故による第三者への賠償責任。例えば、施設管理の不備で爆発事故が起き、近隣住民に損害を与えた等。
 - <生産物・完成作業危険責任>
製造・販売した製品や引き渡した作業の欠陥に起因して発生した第三者に対する賠償責任を担保。いわゆる P L 保険。
 - <人格権侵害責任>
宣伝・広告に使用した差別・中傷用語等に係わる第三者への賠償責任損害を担保する。

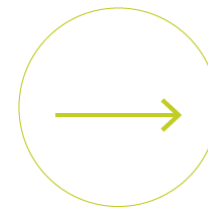
3. 米国企業分野の主な損害保険商品



【一般賠償責任保険 - Commercial General Liability Insurance (CGL/GL)】

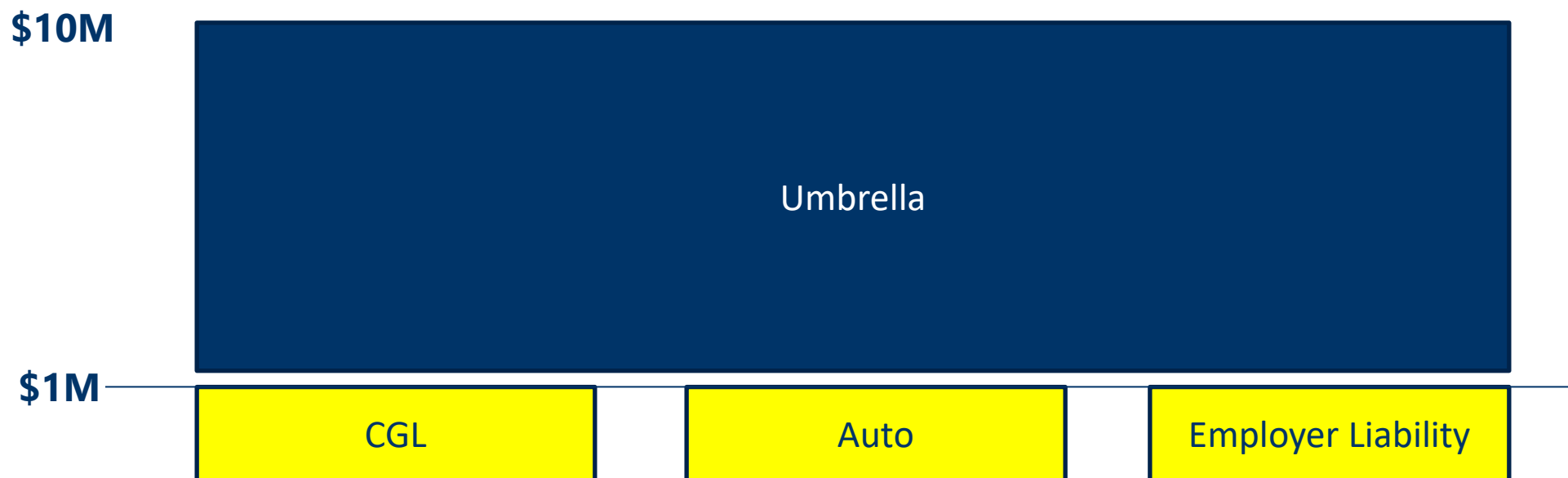
- 賠償金だけでなく、事故解決のための弁護士費用、事故内容調査費用等も保険会社が認める範囲で保険でカバーされる。
- 自動車保険、労災の雇用主賠償責任、サイバー保険などは本保険の補償対象外であり、別途、保険手配する必要がある。

3. 米国企業分野の主な損害保険商品

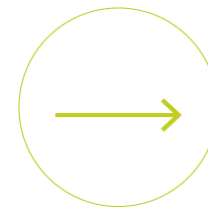


【上乗せ保険 - Umbrella / Excess Liability Insurance】

- Umbrellaの下に入る保険をプライマリー(Primary)と呼ぶ。
- プライマリーの保険の上に傘をかけるような形となるのでUmbrellaと呼ばれている。



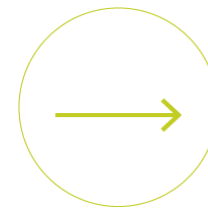
3. 米国企業分野の主な損害保険商品



【労働災害補償保険 - Workers Compensation Insurance】

- 企業の従業員が職務遂行に起因して負った怪我・疾病の治療費・休業損害を補償する保険。
- 一般的に企業が手配する損害保険商品の中では保険料が大きく、企業の損害保険料コスト全体を左右することが多い。
- 無過失責任ベースの補償。
- 殆どの州で民間保険会社が主体となって本商品を提供。

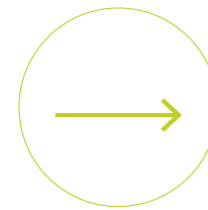
3. 米国企業分野の主な損害保険商品



【財物保険 - Property Insurance】

- 火災・爆発や自然災害等の事故による財物損壊による経済的損害を補償する。
 - 保険対象施設・動産への損害
 - 休業損害・臨時費用 Business Interruption (Time element)
- 通常はAll Risk方式で、免責となるリスクを個別に列挙する形となる。
 - 例) 戦争・テロ、経年劣化による摩耗、電氣的・機械的事故等
- 米国ではハリケーン、洪水、竜巻、雹、雷、地震、山火事等の巨大自然災害リスクに要注意。

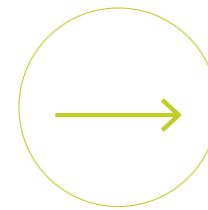
3. 米国企業分野の主な損害保険商品



【サイバー保険 - Cyber Insurance】

- サイバー攻撃等の保険対象事故により被保険者が受けた以下のような経済的損害を補償。
 - 個人情報漏洩による賠償責任
 - 原因究明、各種事故対応費用
 - サイバー事故によって発生した業務遂行障害に伴う休業損害
 - 罰金、身代金

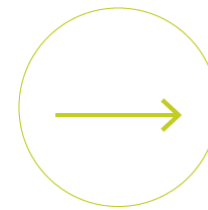
3. 米国企業分野の主な損害保険商品



サイバーリスクへの対応

- サイバーリスクはサイバー保険だけでなく、他の保険でも補償が適用される可能性がある。
 - 財物保険 (Property Insurance)
 - 一定のサイバー事故に伴って生じた火災、爆発等の事故を補償するケースもあり。
 - 犯罪保険 (Crime Insurance)
 - 犯罪保険はManagement Liability保険の一部、あるいは単独で保険手配されることも多い。
 - サイバー犯罪に関連する被害については、この保険で一定の補償がなされることも多い。

3. 米国企業分野の主な損害保険商品



【その他の保険】

- 自動車保険 - Commercial Auto
- 貨物保険 - Ocean and Inland Marine Cargo
- 会社役員賠償責任保険 - D&O
- 雇用慣行賠償責任保険
- Employment Practice Liability
- 犯罪保険 - Crime
- コマーシャルパッケージ保険
- Commercial Package Policy
- ビジネスオーナーズ保険 - Business Owners Policy
- 建設工事保険 - Builders All Risk
- リコール保険 - Product Recall
- 取引信用保険 - Trade Credit
- 環境汚染賠償責任保険
- Environmental Liability
- 誘拐・脅迫保険 - Kidnap & Ransom
- 職場内暴力費用保険
- Workplace Violence Expense
- 出張旅行保険 - Business Travel Accident
- 表明保証保険 - Rep & Warranty
- 税保険 - Tax Insurance 等

4. 損害保険料はどうやって計算されているのか？

4. 損害保険料はどうやって計算されているのか？



- **保険料 = エクスポージャー (Exposure) x 保険料率 (Rate)**
 - エクスポージャーは、保険料算出の基礎となるデータを意味する。
 - 例えばPropertyの場合には建物の価値 + 休業損害見込み額の合計がエクスポージャーとなり、CGLの場合には売上高や施設の面積などがエクスポージャーとなる。
 - 例：Propertyでエクスポージャーが\$100M、Rateが0.1%の保険料
 $\$100M \times 0.1\% = \$100K$
 - **エクスポージャーと保険料率の増減が保険料の増減に影響する。**

4. 損害保険料はどうやって計算されているのか？



- **保険料率の決め方**

- **基本料率**

- 多くの場合、保険対象種目毎に、所在州、業種区分で基準となる料率が設定される。

- **個別契約ごとの調整**

- てん補限度額等の補償内容条件
- 損害率(Loss Ratio)、事故状況、事故防止軽減の取り組み状況、リスクマネジメント体制を加味して最終的な保険料率が設定される。

4. 損害保険料はどうやって計算されているのか？



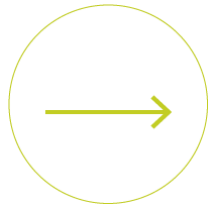
- 一般的な損害保険料の内訳イメージ

保険会社の利潤(5-10%)
保険会社経費(25-35%) 保険会社人件費、物件費、ブローカーへの手数料等が含まれる。ブローカーへの手数料は10-15%程度
発生保険金(*1)(55-70%) ブローカーへの手数料が上記保険会社経費に含まれない場合には10-15%程度高くなる

*1：保険金には支払済分(Paid)だけでなく、未払い分(Outstanding)も含まれる。

5. 最近のトピックス

5. 最近のトピックス



- サイバーリスクへの対応



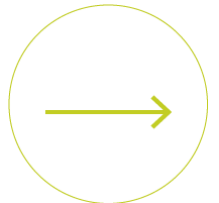
出典：<https://us.norton.com/internetsecurity-emerging-threats-cyberthreat-trends-cybersecurity-threat-review.html>

ミサイルよりもサイバー攻撃の方がF35を撃墜できる可能性が高い。

2025年には全世界でサイバー犯罪による被害額は\$ 10.5 Trillionに到達する見込み。

FBIは1日当たり2000件以上のサイバー犯罪被害の届け出を受けている。

5. 最近のトピックス



- サイバーリスクへの対応：製造業が最多のターゲットとなっている。

Industry trends

IBM Security's 2023 X-Force Threat Intelligence Index

For the second year in a row, manufacturing was the top-attacked industry, according to X-Force incident response data. Finance and insurance lost the top spot by just one percentage point in 2021—after holding the title for five consecutive years—and is in second place again in 2022 by a larger margin of nearly six percentage points.

Share of attacks by industry 2018 – 2022

Industry	2022	2021	2020	2019	2018
Manufacturing	24.8%	23.2	17.7	8	10
Finance and insurance	18.9%	22.4	23	17	19
Professional, business and consumer services	14.6%	12.7	8.7	10	12
Energy	10.7%	8.2	11.1	6	6
Retail and wholesale	8.7%	7.3	10.2	16	11
Education	7.3%	2.8	4	8	6
Healthcare	5.8%	5.1	6.6	3	6
Government	4.8%	2.8	7.9	8	8
Transportation	3.9%	4	5.1	13	13
Media and telecom	0.5%	2.5	5.7	10	8

CYBERSCOOP

Topics ▾ Special Reports Events Podcasts Videos Insights

RESEARCH

Ransomware attacks surge against US manufacturing plants

Cyberattacks against critical infrastructure continues to increase and some sectors, such as manufacturing, take the brunt of abuse.

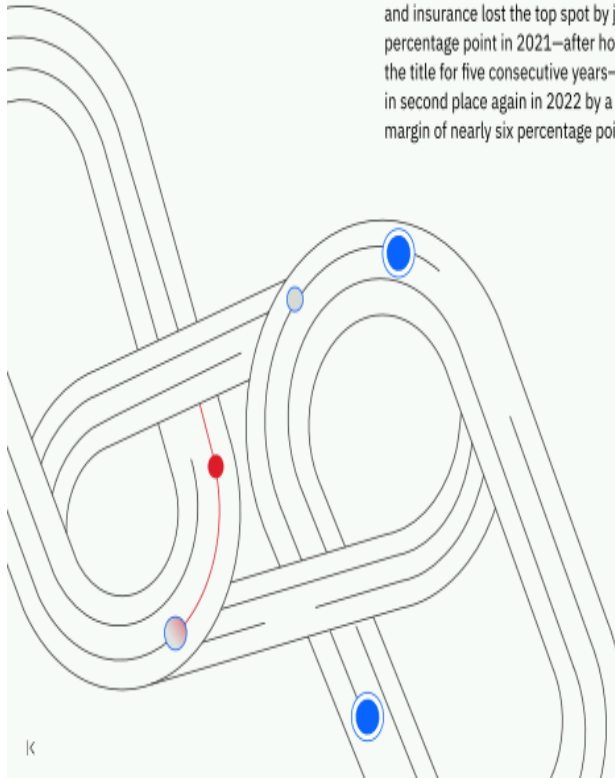
BY CHRISTIAN VASQUEZ • FEBRUARY 14, 2023



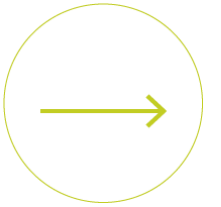
Rolls of galvanized steel sheet inside the factory or warehouse. (Getty Images)

The manufacturing industry suffered at least 437 ransomware attacks in 2022, making up more than 70% of these types of costly and disruptive assaults that industrial companies faced last year, according to the cybersecurity firm Dragos.

SHARE



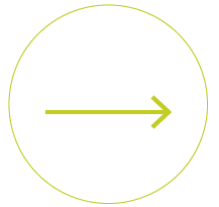
5. 最近のトピックス



- サイバーリスクへの対応

- 保険会社の関心が高い事項

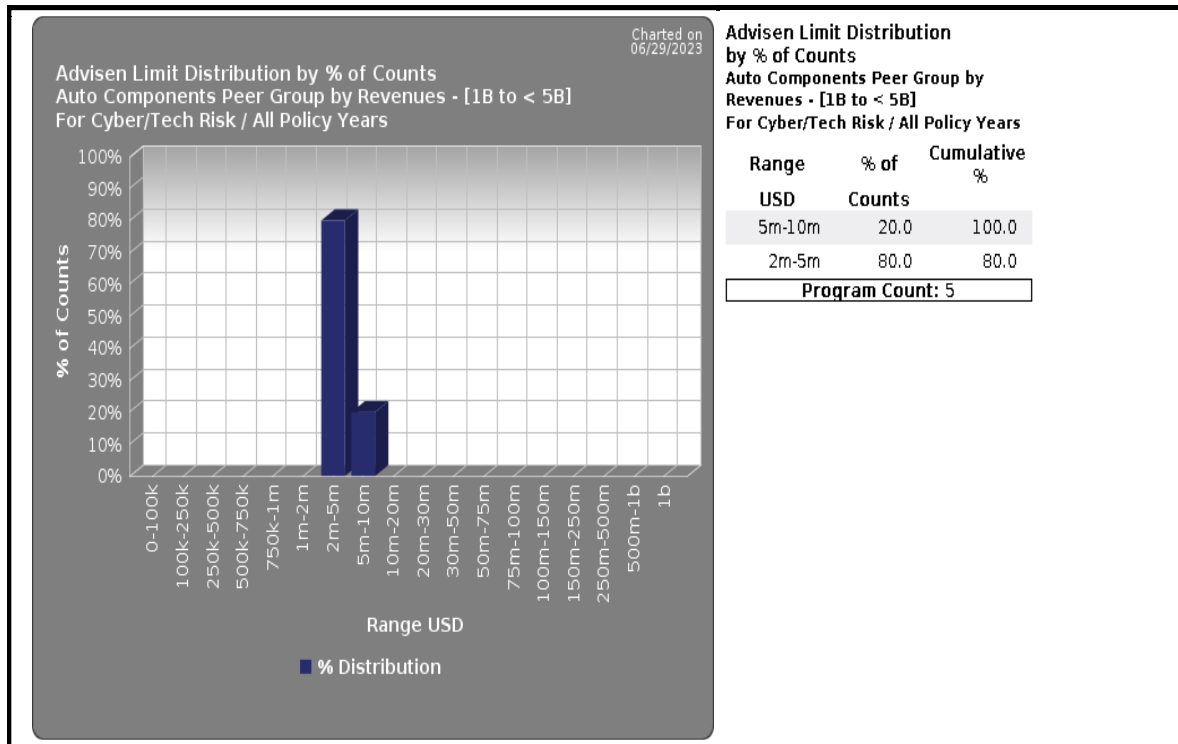
- 経営トップ主導の全社的なセキュリティ対策に対する姿勢とプロセスの定期的な検証、更新、そして適切な対応能力。
- フィッシング攻撃やセキュリティ対策の意識や知識を向上させるための社員への定期的・継続的なサイバーセキュリティ教育。
- 迅速にインシデント対応を行うための対応策。
- 定期的なパッチ(修正プログラム、アップデート)の適用
- マルチファクタ認証(MFA)としっかりしたリモート・デスクトップ・プロトコールのセキュリティ対策。
- サイバー攻撃をフィルターするセキュリティ対策、オープンポートやワークステーションでのエンドポイントでの攻撃を防ぐための高度なセキュリティ対策。
- 暗号化したバックアップを定期的にオフラインに保管する。



5. 最近のトピックス

- サイバーリスクへの対応
 - 保険購入にあたっての参考情報

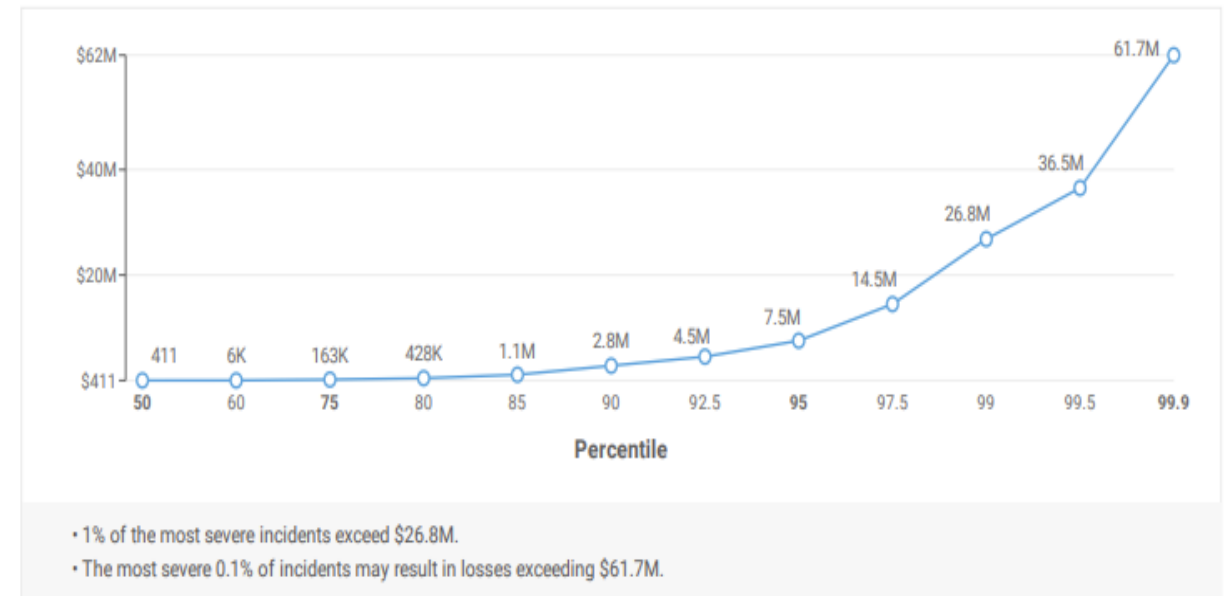
<Bench Marking Data>



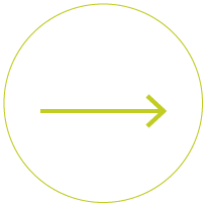
<リスクの定量評価>

Aggregate Severity Distribution

The Aggregate Severity Distribution represents the potential losses a company may experience given a cyber incident. It is based on modeling and running 50K simulations about this company and ranking the incidents by estimated loss.

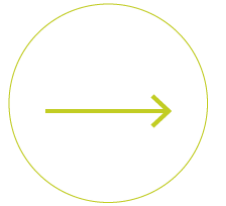


5. 最近のトピックス

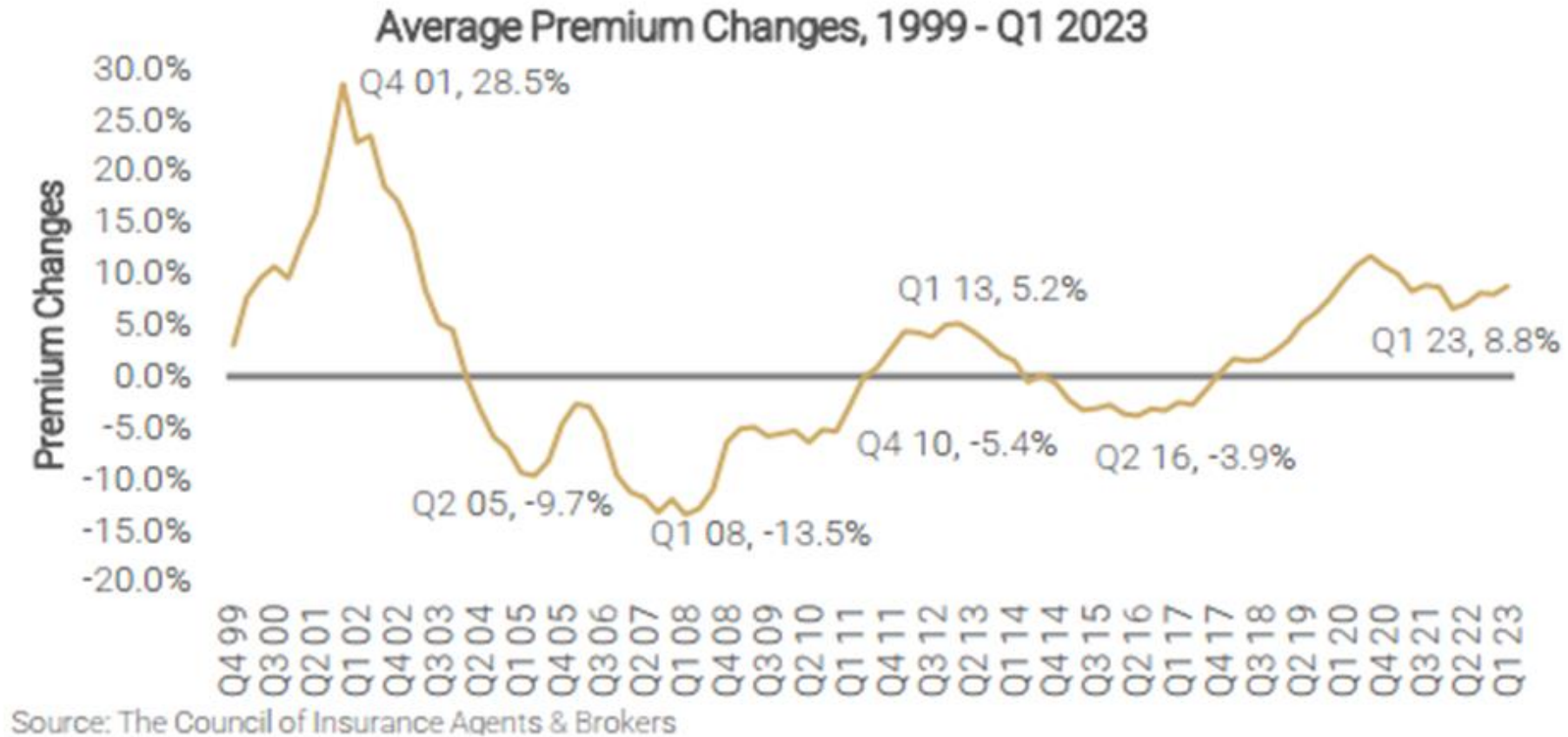


- **ハードマーケット - 保険料率の上昇や補償内容の削減**
 - 自然災害の多発、賠償責任の高額化により特に2019年以降ハードマーケットが続いている。
 - 特に、自然災害エクスポージャーの大きい財物保険、賠償責任保険種目の上乗せ保険、自動車保険などの種目で上昇幅が大きい。

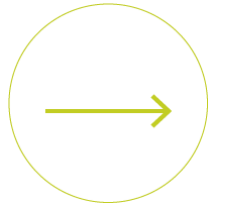
5. 最近のトピックス



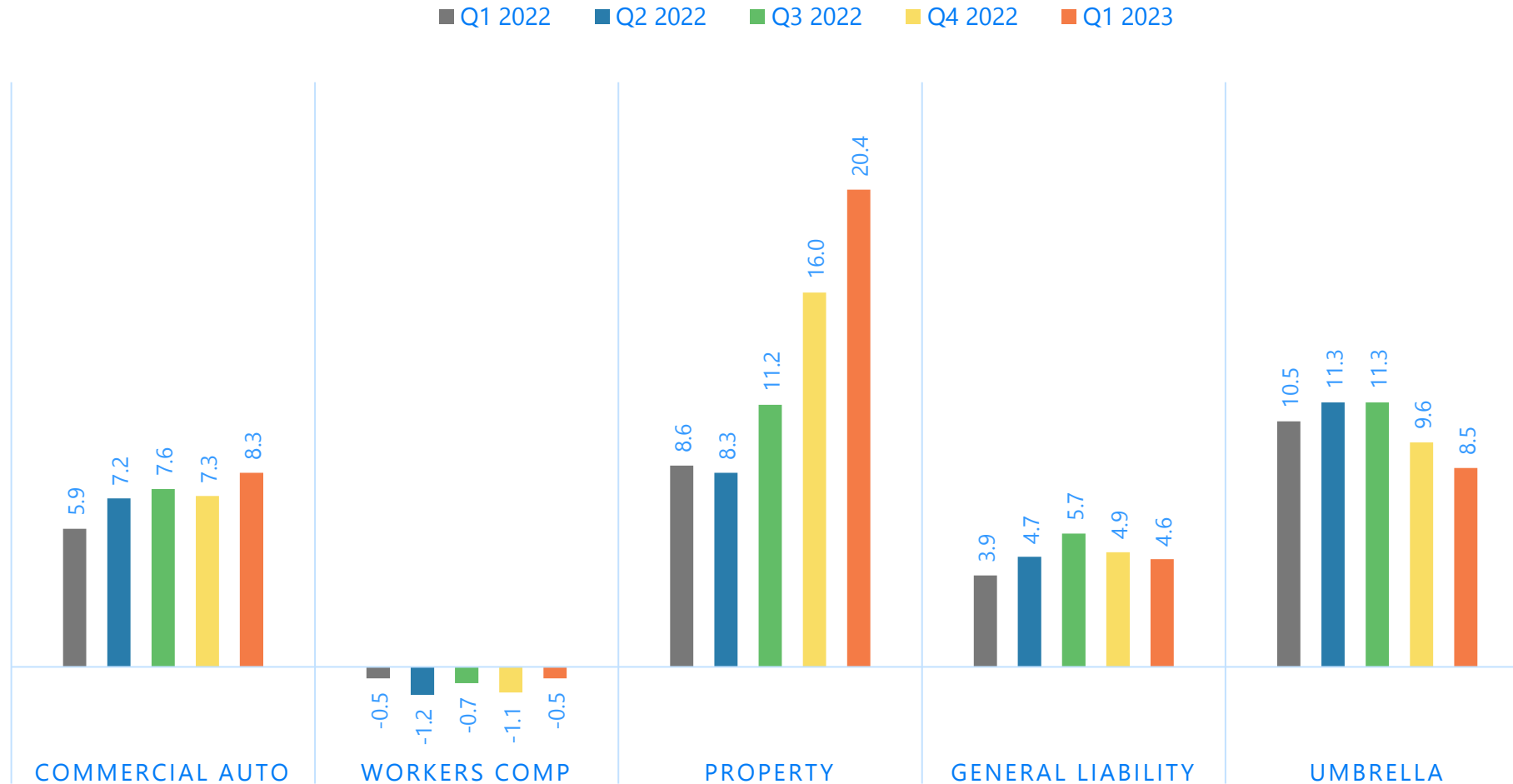
- ハードマーケット - 保険料率の上昇や補償内容の削減



5. 最近のトピックス



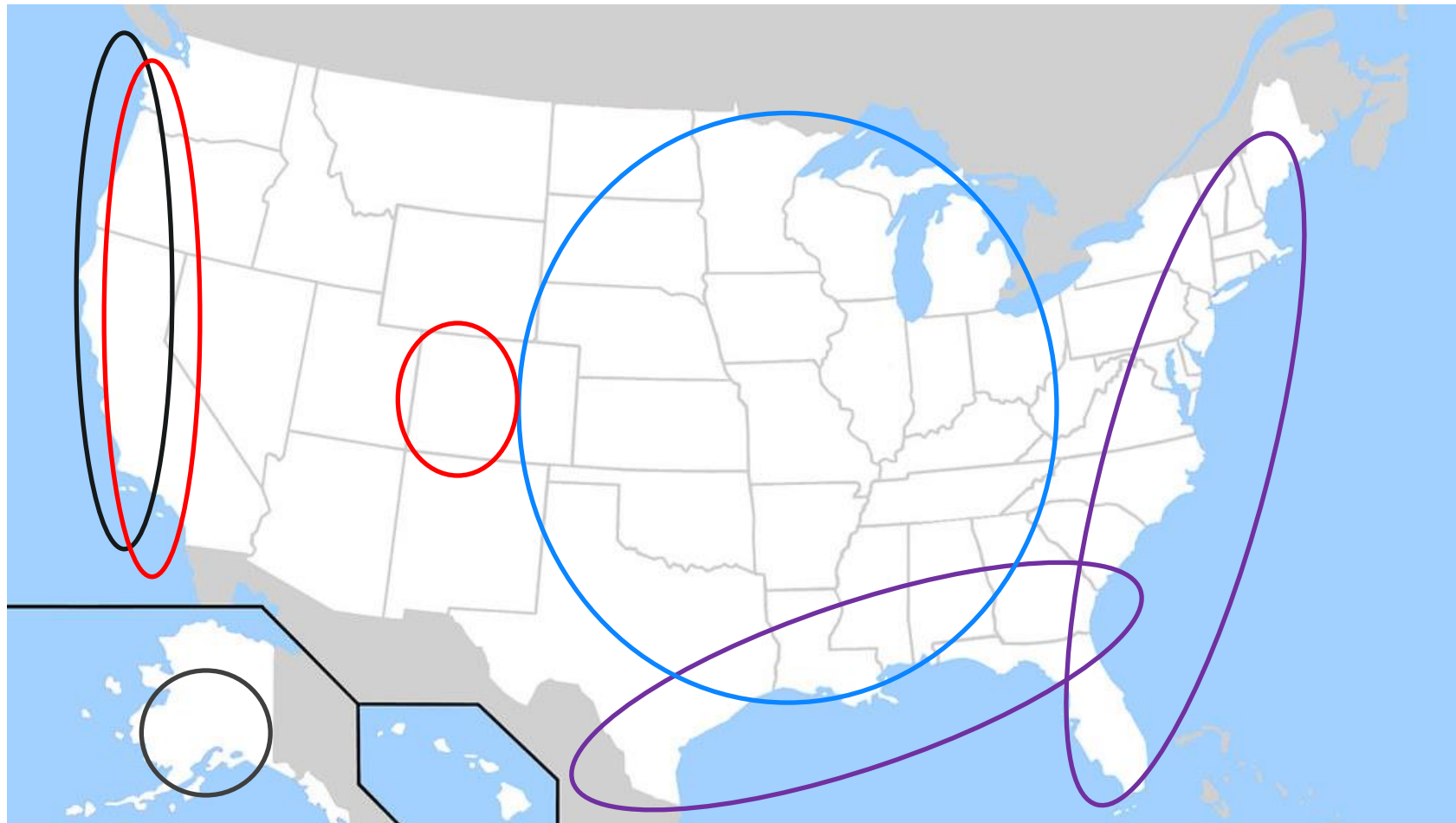
- ハードマーケット - 保険料率の上昇や補償内容の削減



5. 最近のトピックス



米国における自然災害リスクが高い地域



- ハリケーン
- 地震
- 山火事
- 竜巻・雹

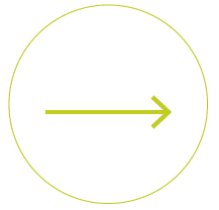
5. 最近のトピックス



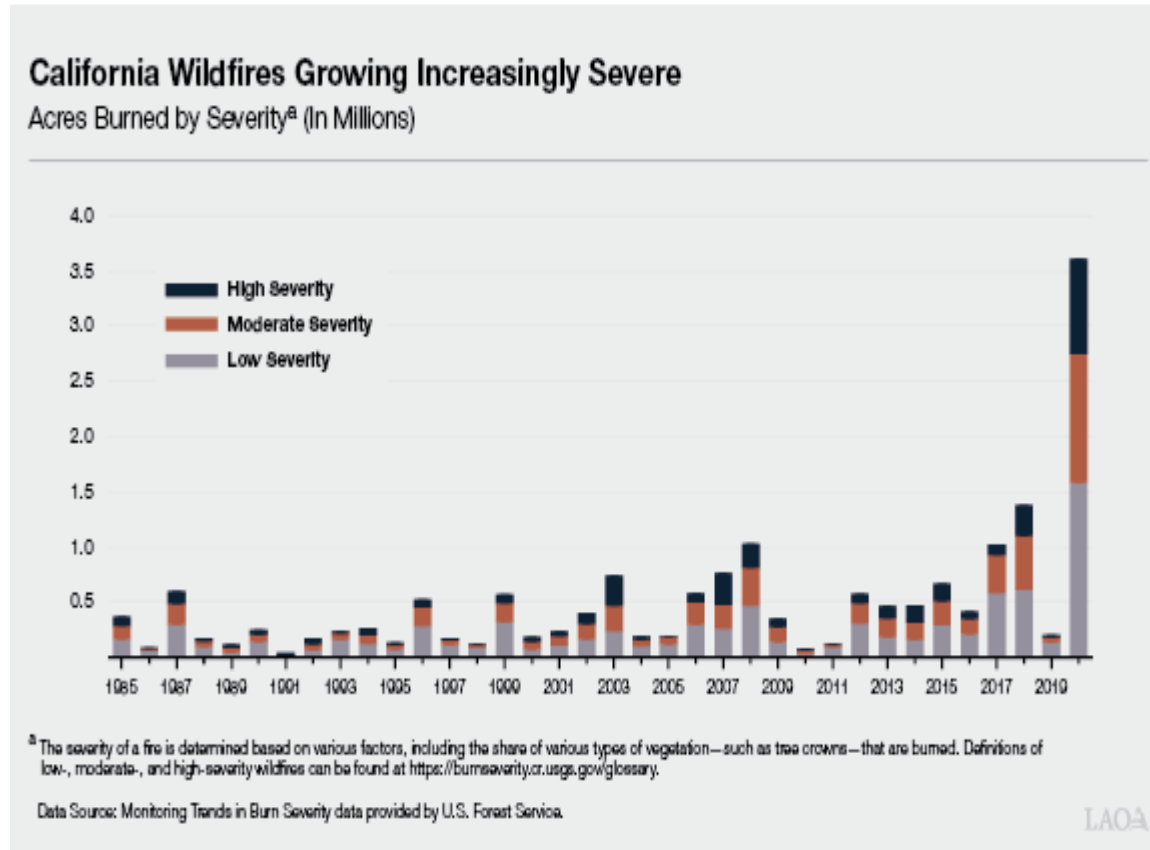
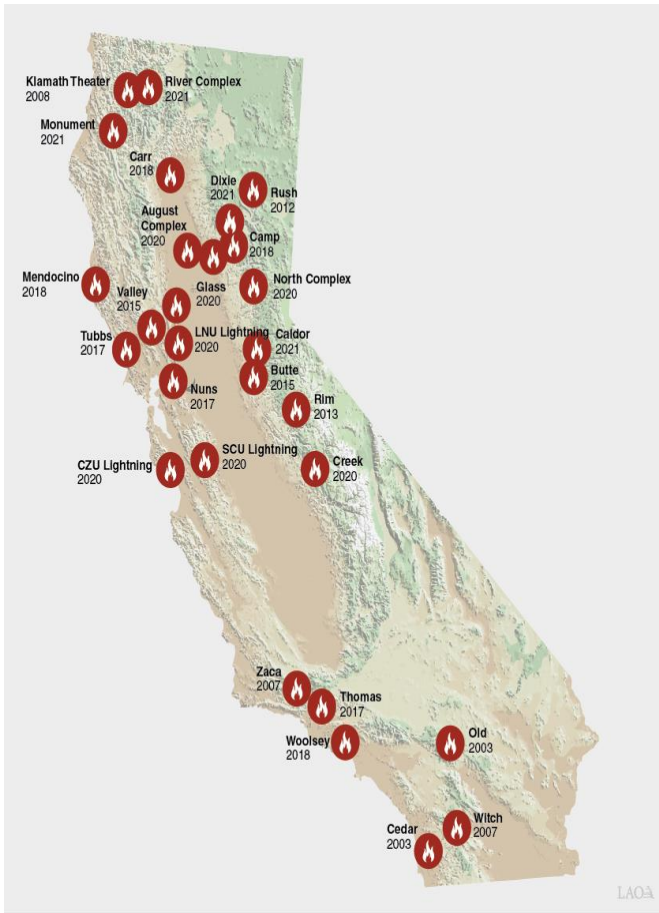
- **ハードマーケット：自然災害の多発、想定外の規模の事象**



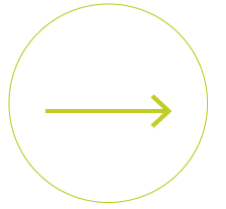
5. 最近のトピックス



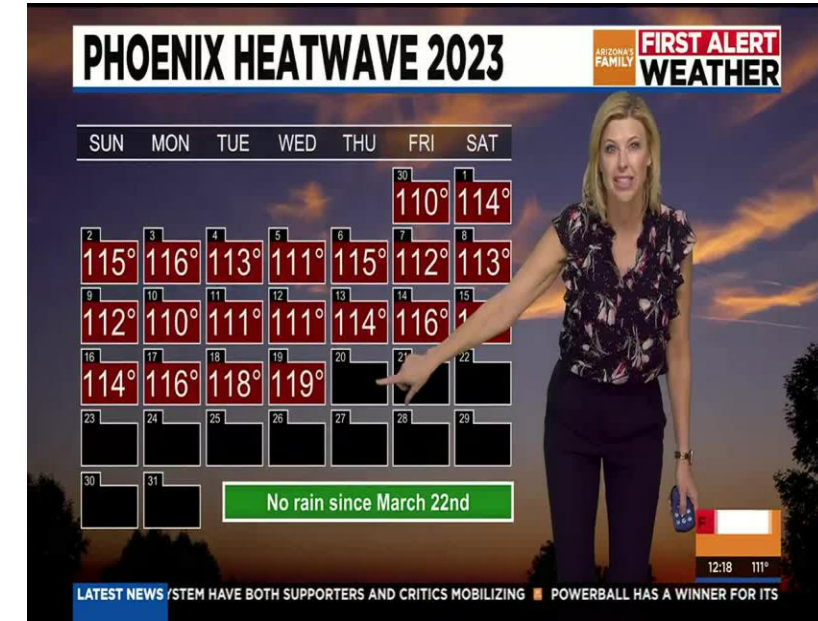
- **ハードマーケット：自然災害の多発、想定外の規模の事象**



5. 最近のトピックス



- ハードマーケット：自然災害の多発、想定外の規模の事象

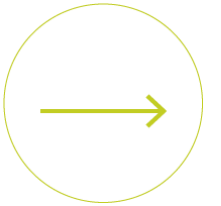


5. 最近のトピックス

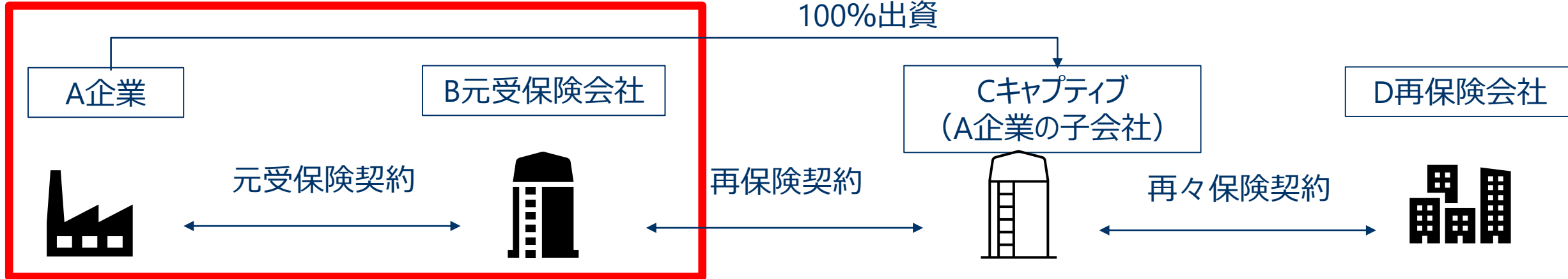


- **キャプティブ(Captive)とは？**
 - 自社グループのリスクを引き受ける保険会社でグループ内リスク保有手法の一形態(お客様が設立する保険会社)。
 - Captiveを辞書で確認すると“捕虜”“捕らわれの”などの意味が出てきます。“親会社のリスクに限定した保険引き受けを行う”という意味で保険業界ではこの言葉が使用されている。
 - 米国内やバミューダ等のオフショアで設立されるケースが多く、キャプティブ専用の法規制が制定されている。
 - 特にハードマーケット環境下で積極的に利用されるケースが多い。

5. 最近のトピックス



キャプティブスキームのイメージ



保険料の流れ

CGL + UMBで元受保険料 3 M。まずA企業がB保険会社に支払い。その後、キャプティブが半分のリスクを引き受け(QSベース)、さらにその半분을再保険会社に移転した場合。各種諸経費部分の考慮はここでは省略。



無事故であれば\$750KのProfitが
キャプティブに留保



5. 最近のトピックス



- **キャプティブのメリット**
 - **トータルコスト削減の可能性**
 - 事故が想定より少なければ、従来、保険会社が得ていたProfitを自社グループ内に留保することができる。
 - 保有するリスクが拡大することが、逆に自社グループ内のリスクマネジメントに関する意識を高める。
 - キャプティブのReserveは適切な計算がなされている場合に損金処理可能
 - **より柔軟な補償内容のアレンジが可能**
 - キャプティブを通じた再保険マーケットへの直接のアクセス
 - **これまでの元受保険会社のサービスは継続活用可能**
 - 但し、キャプティブへの出再にあたり元受保険会社の了解が必要

5. 最近のトピックス

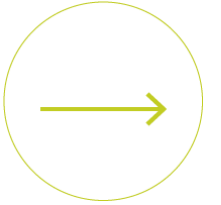


- **キャプティブの留意点**

- リスク保有の一手法であり、当然のことながら想定より多くの事故・支払いが発生するとキャプティブが損失を被ることもある。
- 自社でキャプティブを設立するとなると一定の投下資本が必要となる(但し、小規模なキャプティブ活用においてはレンタ・キャプティブやPCCの様に会社を設立せずにキャプティブを借りて活用するケースも多い)。
- 自社内でのキャプティブ管理主体を明確にしておく必要あり。
(保険担当部署？ 財務部門？ 経営企画部門？)

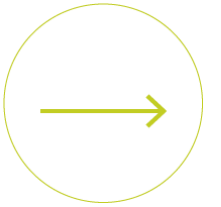
6. 損害保険手配の際に留意すべき事項

6. 損害保険手配の際に留意すべき事項



- **ハードマーケット下の保険更改すべきこと**
 - 早めの準備
 - 保険会社へのアピール要素を整理
 - 自社収益性のレビュー
 - 保険会社・ブローカーからのロスコントロール・レコメンデーションの進捗状況確認
 - 今後の新規案件の可能性
 - ブローカー、保険会社の見直し

6. 損害保険手配の際に留意すべき事項



- **保険プログラムの選定にあたり**
 - Total Cost of Riskの視点
 - 保険料だけでなく、免責金額等の自己負担金額の推定、TPAを起用している場合にはその費用、ブローカーへの報酬等をトータルで分析
 - 保険会社の事故防止・軽減の取り組みやクレーム関連サービス
 - どこまで何をいくらで対応してくれるのか？
 - 保険会社・貴社担当チームメンバー
 - 保険会社の財務内容

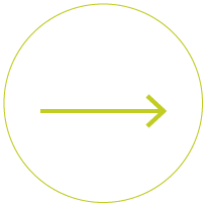
7. 保険ブローカーの業務

7. 保険ブローカーの業務



- **保険ブローカーの業務：顧客の代理人**として以下のような業務を遂行
 - 企業が抱えるリスクの把握、評価、対応策の立案
 - 保険会社との新規保険付保・更改時の各種手続き・交渉
 - **保険契約約款内容のレビューと顧客への説明**
 - 保険期間中の各種変更事項や付保証明要請への対応
 - **取引先との各種契約書上の付保義務等のレビューとアドバイス**
 - **リスク改善活動の取り組みに関する各種アドバイス**
 - **事故発生時の対応アドバイス、保険会社との交渉**
 - **M&A時のリスクマネジメント・損害保険内容のDue Diligence作業のサポート**

7. 保険ブローカーの業務

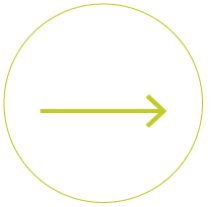


- **よいブローカーの見極め方**
 - どれくらい顧客のビジネスを理解できているのか？
 - どれくらい専門性を持っているのか？
 - どれくらい基本的な対応をしっかりとできるのか？
 - 同じ会社でも**個人差は大きい**。



- **話をする。**
- **保険プログラムのレビューを依頼する。**

Webinar Legal Disclaimer



You are attending a webinar (“Webinar”) presented by Baldwin Risk Partners, LLC, on behalf of itself, its affiliates and/or its invited guest presenters, if any (“BRP”). The Webinar is made publicly available and is offered free of charge.

Your participation and/or attendance in this Webinar, or the receipt of any information from BRP in connection with this Webinar, is not intended to create nor does it create a broker/risk manager, legal, medical or other relationship between you and BRP. The content, including links to other sites and publications, included in this Webinar is not intended to constitute comprehensive insurance, risk management, legal or medical advice. You should seek individual advice or other professional advice before acting or relying on the content or information in this Webinar.

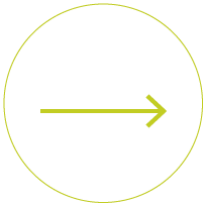
The information and materials provided in connection with this Webinar is provided “AS IS” with all faults. BRP does not warrant the accuracy, adequacy or completeness of the information and materials provided in connection with this Webinar and expressly disclaims liability for errors or omissions in this information and materials. Except as may be required under applicable law, no warranty of any kind implied or express, including but not limited to the warranties of non-infringement of third party rights, title in, merchantability of or fitness for a particular purpose is given.

The information and material provided in connection with this Webinar is for informational purposes only and is not intended to provide insurance, risk management, legal, medical or other advice and should not be relied upon in that regard.

Certain names, words, titles, phrases, logos, icons, graphics or designs shown or shared in connection with this webinar may constitute trade names, registered or unregistered trademarks or service marks (“Intellectual Property”) of BRP or third parties. Intellectual Property belonging to third parties are used under license. However, the display of trademarks or Intellectual Property in connection with this Webinar does not imply that a license has been granted to you or any other third party to use that Intellectual Property.

To the maximum extent permitted by law, any liability which may arise as a result of the participation or attendance in this Webinar, or with respect to its content or the information contained in it, is excluded. BRP will not be liable for any indirect, incidental, special or consequential loss arising out of participation or attendance in this Webinar, including without limitation any loss of business profits.

Q & A



ご清聴ありがとうございました

保険に関するご質問等、お気軽にお問い合わせください。

＜弊社連絡先＞

鎌野達志

Director – BRP Global Japanese Practice
Global Energy & Manufacturing Industry Leader
alex.kamano@baldwinriskpartners.com